

学科としての教員養成の目標、計画、教育の質向上の取り組み

人間文化学部 人間文化学科（中一種免（国語・社会）・高一種免（国語・地理歴史））

①教員養成の目標

人間文化学科は、本学の建学の理念「人間性を尊重し、調和的な全人陶冶を目指す全人教育」に沿って、「今も生み出し続けている文化（人間文化）について語学・文学・歴史・思想にわたる幅広い知識を身につけるとともに、専門とする一分野についてより深い知識と技能を身につける」ことをディプロマ・ポリシーとしている。そして、学部の目的である「人間の営みの根幹について広く深く教育・研究し、教養豊かな人間力あふれる職業人を養成する」際に、学科としては「グローバル社会への適応力に満ちた人材を養成すること」を目的としている。

従って、人間文化学科の教員養成の目標は、人間性を尊重し、人間の文化について幅広い知識を身につけるとともに、専門とする一分野についてより深い知識と技能を身につけ、グローバル社会への適応力に満ちた教養豊かな人間力あふれる教員を養成することである。

②教員養成の計画

四月の年度始めのオリエンテーションにおいて、どの教科の教員を目指すかの動機付けを行い、担任、教職委員、教職・教科に関する科目担当教員が密に連携し、各学年それぞれに合わせたきめ細かな指導を4年間通じて、行っていく。

教育実習に際しては、学科で事前に模擬授業、及びその検討会を行い現場で良い授業ができるよう全教員でバックアップする。また、実習先を訪問し、授業を見学する事で現地での指導にも力を入れる。そして「教職実践演習」において教員養成の総仕上げを行う。

③教員養成教育の質向上の取り組み

担任、教職委員、教職・教科に関する科目担当教員、すなわち学科の全教員が一丸となって、各講義、ゼミ、オフィスアワー、学習支援室において、学生が知識の修得だけでなく、教員としての人間性を高める事ができるよう指導している。

教育実習に関しては、②教員養成の計画でも述べたように模擬授業を全学年に公開する事で次年度以降に実習に参加する学生の動機付けを高め、4年次生については、その検討を受け、事前事後にもさらに教科ごとに、個別にきめ細かな指導を行っている。
